

令和4年度第2回岡山市総合教育会議

日時：令和4年11月22日（火）

場所：市庁舎 第3会議室

午後3時30分 開会

○司会 定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第2回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、全員のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室を許可してよろしいでしょうか。

○市長 特段問題ないと思いますけど、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 では、お願いします。

○司会 はい。傍聴者の入室を許可します。

〔傍聴者入室〕

○司会 それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしく願いいたします。

○市長 はい。それでは、次第に沿って議事を進めます。

本日は、「全国学力・学習状況調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果の分析について報告をしていただきます。それらを踏まえて、今後の課題や取組の方向性などについて議論していただきたいと思います。

前回に引き続きまして、岡山市中学校長会の長瀬会長、また小学校長会の高山会長にご出席をいただいております。また、今回新たに岡山大学大学院教育学研究科の研究科長であり教育学部の学部長である高瀬教授、岡山中央中学校の岡林校長、芳泉小学校の平井校長、またベネッセコーポレーションの西島さんと長谷川さんにもご参加をいただいております。

それでは、初めてご出席の方に自己紹介をお願いいたします。

まずは、高瀬教授、お願いいたします。

○高瀬教授 失礼します。岡山大学の高瀬と申します。

まずは、学生等が卒業しましたら岡山市では教員として大変お世話になっております。

指定都市にある国立大学として岡山市のお役に立てるようというのを組織的にも考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○市長 続いて、岡山中央中学校の岡林校長、お願いします。

○岡林岡山中央中学校長 岡山中央中学校の校長の岡林でございます。

昨年度の4月に着任して、ほぼ1年半を経過したところで、いろんな課題等が見えてきた中で、今日は出席させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

○市長 それでは、芳泉小学校の平井校長、お願いします。

○平井芳泉小学校長 失礼します。芳泉小学校の平井と申します。どうぞよろしく願いいたします。着任まだ半年ですが、子どもたちのいいところ、課題、両方とも少しずつ見えてきたところです。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○市長 ありがとうございます。

では、資料1について教育長から説明をお願いします。

○教育長 失礼します。まず、教育大綱が目指す子どもの育成に向けた取組状況等を取り上げていただき、ありがとうございます。本日は、学力と問題行動等の全国調査の結果を踏まえて、基礎となる2つの目標の状況についてご説明させていただきます。

資料の説明に入る前に1つお話をさせていただきます。

私、本年9月に教育長を拝命いたしまして、もう少しで3か月となります。総合教育会議については教育長としての初めての参加となりますが、教育大綱については第1期のときの策定に関わらせていただき、教育次長として岡山市の現状に対して学力と問題行動等に集中的に取り組みました。令和元年からは小学校長として現場で取り組んでまいりました。第2期大綱策定には関わっておりませんが、小学校の校長として目の前にいる子どもや教職員の実態、学校の状況を重ね合わせながら、「スマイル&チャレンジ」を合い言葉として、苦手なことでも友達や先生の力を支えに頑張る子どもを育てることや、集団の力を上げることで個の成長につながることに取り組みました。

現在、私としては、学校を安全・安心な学びの場として、未来の希望である岡山市の子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働しながら自分も他人も幸せな社会をつくることができるよう、学校と教育委員会が一体となってチームとして取り組むことを目指しています。そうした思いの中で現状を見たときに、子どもたち一人一人が自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができるようになるために必要なことは、コミュニケーションを基盤とした読解力の育成であると考え、令和5年度から令和7年度

まで重点的に取り組もうと考えております。

それでは、調査につきまして資料を使ってご説明いたします。

資料1をご覧ください。

まず、基礎としての目標の達成状況ですが、全国学力・学習状況調査の偏差値は50以上であり、達成しております。

記述式問題の正答率の対全国比は、おおむね達成しております。小学校6年生、中学校3年生が対象となっております。

新規不登校児童・生徒の出現率は、残念ながら達成できておりません。

詳細については下のグラフをご覧くださいと思いますが、まず現状のところの左側、ピンク色の欄に記載しているとおり、学校での授業改善の取組が定着し、全国平均レベルの学力は維持しております。

記述式問題の正答率は、小学校6年生・中学校3年生は、ほぼ全国レベルである一方で、今年度新たに全国との比較ができる標準学力調査を実施したところ、表にあるとおりで、小学校2年生・3年生、中学校2年生では、国語、算数、数学ともに全国平均レベルを下回っております。

また、右側の黄色の欄に記載しているとおり、小・中学校を合計した新規不登校児童生徒の出現率は増加しております。

新たに欠席が30日以上の不登校となった児童生徒の平均的な状態は、市平均と比べて全体的に満足度が低く、特に「友達との信頼関係の状況」、「他者に自分の思いや考えを発信すること」が低い結果となっております。

なお、下のグラフにあるように、児童生徒のいじめのサインや対人ストレスに係る満足度で小学校3年生と中学校2年生で全国平均を下回る結果となっておりますが、特に「嫌なことをしつこく言われる」、「グループをつくる時に1人になるかと不安を感じる」などの質問項目が低い状況でした。

続いて、資料2をご覧ください。

これら基礎としての目標の達成状況から課題を2点にまとめております。

1点目は、第1期教育大綱の取組を通して考える力は身につけていますが、表現する力には課題が見られること。2点目は、記述式問題の無解答率は特に中学校で年々減少してきていますが、全国レベルには達していないということです。

理由としては、基礎的な知識を学習する機会と比較して活用する学習が少ないこと、長

い問題文から必要な情報を読み取ることに課題があることと考えております。また、資料にはありませんが、今年度の全国学力・学習状況調査で児童生徒の平日の読書時間を問うアンケートでは、「全くしない」と回答した割合が3割程度であり、読む機会が減少していることも、これらの課題に関連していると考えています。

今年度達成した偏差値50以上をより盤石なものとし、また新規不登校児童生徒の出現率の目標に資するために、令和5年度から令和7年度の重点的な目標を先ほど申しました「コミュニケーションを基盤とした読解力の育成」と設定し、しっかりと取り組んでまいります。そして、その指標として、令和7年度の調査の記述式問題の正答率が小学校1年生を除く全学年で対全国比1以上となることを目指します。

我々が考える読解力とは、1人で完結するものだけでなく、学校という集団生活の場で他者とコミュニケーションする中で様々な思いや考えに触れて育つ力であり、子どもたちが読解力を身に付けることで目指す子どもの姿に確実に近づいていくと考えています。そのため、全ての学校で授業の振り返りを書くこと、つまり自分の言葉で今日の授業はどうだったか客観的に書くことを徹底してまいります。また、読解力を高める取組を徹底してまいります。これについては様々なアプローチがあると思いますので、皆様のご意見をいただきながら、具体的な内容について、より実態に即した取組が徹底できるよう進めてまいります。

最後に、本日は大学の専門的な立場からのご意見や岡山市と全国的なデータの比較からのご意見、また校長会から学校での有効な取組などについてご意見、ご示唆をいただき、教育委員会として、しっかりと取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。

それでは、西島さん、お願いできますか。

○西島 はい、失礼いたします。資料3という、とじ物がございます。こちらをもちまして令和4年度の全国調査の分析をさせていただきます。10分ほどお時間を頂戴しておりますが、資料が少し多くなっておりますので、駆け足になりますこととお許しいただければと思います。

1枚めくっていただきまして、右上、3ページのところでございます。

こちらは先ほど教育長のほうからお話もありました記述式問題の全国との比較の状況、それから無解答率の全国との比較となっております。

下のほうの無解答率をご覧くださいますと、経年で見ていきますと小も中もどちらも改

善している大きな傾向としては捉えられるかと思いますが、まだまだ中学校のほうが改善の余地があるというところで、最後に少しここを深掘りをしてみたいと思います。

では、次のページを開いていただきまして、ではどういった学力の特徴があるのかということ領域ごとに少しカットして見ていきたいと思います。

まず、小学校のほうは4ページですけれども、今年度は理科もありましたので理科も並べておりますが、理科は4年に1回程度となっておりますので間が抜けておりますが、全体的に青いところが過去よりもよくなってきている傾向にあるところ、ピンクのところは少し低下傾向と見ていいかと思うんですが、塗ってないところも含めまして、記述式というのが各教科の一番下にあります。これらは本当に国語も算数も上向きになっておりますし、ピンクのところがある意味、選択式のところが問題が難しかった、あるいは合わなかったというところでマイナスになっているのかもしれませんが、先ほどからお話があります、書く力あるいは記述式というところはいい形になっているということが言えると思います。まだまだというところかもしれませんが、向上はしている状況です。

下の中学校、5ページのほうも記述式が改善しているというのは、それぞれの教科において言えることかなと思います。1点、数学、これはいろんな分野がありますし、得意・不得意ですとか様々な要因があるかと思うんですけれども、1つ、ぜひ中学校の先生方にはお気を付けいただきたいのは、データの活用というところが下がってきているところでございます。今回の学習指導要領の改訂では、中学校も高校も、もちろん小学校もこういったデータの活用という領域がすごく重視をされておりますし、社会に出てからもデータサイエンスというのは重視をされています。また、大学でもそういった専門教育のようなものを実は文理問わず全学でデータサイエンスの講座をやっていこうという動きが広がってきておりますので、ここは本当に今後10年、20年、30年使う力として、しっかり中学校、小学校のうちから素養を付けていただきたいなと思うところになります。

教科については以上となります。また、この後も教科と絡むところはありますが、質問紙のほうのご報告に入りたいと思います。

6ページから学校質問紙になります。

こちら、コロナの影響で様々な変化がこの数年ありましたので、まずは3か年で並べてみて、同じ質問について4年前になりますが、4年前とプラスになった項目、マイナスになった項目というところで着目をしていきたいと思います。

7ページ、小学校です。

こちら、3か年で並べて肯定的な回答、グラフで言いますと赤と黄色の足し算が増えたところと見ていただければと思います。赤だけ見るとちょっと上下をしておりますが、どちらかといえば、そうだといいところも含めて、平成31年に比べて増えているところと見ていただきますと、落ち着いている、あるいは探究の過程を意識した指導、課題の解決、自ら取り組む、あるいは実生活との関連というところで、1つ目の項目は多分コロナの影響もあって、なかなか騒げないということもあるのかなと思いますが、残り3つについては、まさに新しい学習指導要領が求められるところでございまして、そこを着実に指導を強化をされているということが言えるかと思います。

次のページ、中学校になります。8ページ目になります。

こちらも同様に、実生活との関係ですとか課題の解決、あるいは道徳において話し合い、考える、指導計画をしっかりとつくるというあたり、学習指導要領で求められているところが中学校のほうでも着実に伸びているということが言えるかと思います。

続きまして、今度はマイナスになった項目ということで、小学校、9ページになります。

いずれも地域の方との協働ですとか中学校との協働の研究ですとか課題共有というところで、なかなか地域の活動というのができていく状況というのが如実に表れているかなと思いますし、次の10ページ、中学校になりますが、もうほぼ同じでございます。

近隣の小学校との関連、あるいは地域との関連というところで、大きくマイナスになってきています。恐らくウイズコロナの時代になってきても、家庭の方々、地域の方々までここまで学校に協力していいかという、なかなか二の足を踏んでしまわれるような状況になってしまっているのかなとも思いますので、どこかで市として、あるいは教育委員会として、ぜひ協力をというふうな再度の呼びかけをしていかないと、何かこのまま衰退してしまおうのはすごく残念なことだなと思いますので、ぜひそういった動きも期待をしたいなと思っております。

続いて、11ページからは2か年で比較できる質問項目について、同様に肯定的な回答のスコアに着目をしたものになっております。

11ページでは、特に見られるのがICTが上2つです。専門のスタッフがすごく増えて学校にとってはプラスになっているですとか右側は研修機会がすごく増えたということで、先生方にとっては非常に環境が整備されてきているということが言えるかと思います。これも市の努力をされている、まさに結果だと思います。

下のほうは、こちらは指導に関わる場所ですけれども、話し合いにおいて最後まで聞くことができる、あるいはうまく伝わるように工夫ができるということで、聞く、伝えるといった口頭での学習活動が増えていて、児童が主体となって動いているという姿が見えるかなと思います。

次の12ページですが、こちらでもICTに係る場所でも専門スタッフの充実ということがありますし、下のほうの2つ、校長先生が回答されていますので、校長先生からご覧になって先生が問題を抱えているなというときには共に解決しようと動いていってほしいですし、右側の研修機会ということで学校としての先生のサポートということも働き方改革ということもありますし、とっても大事なことなんだろうと思います。

続いて、マイナスになった項目ということで13ページ、小学校からになります。

肯定的回答が2か年でマイナスになっているというところでご覧いただきますと、1つ目、まとめ、表現する、あるいは右側の合意形成、このあたりがマイナスになっています。この辺ももちろん学習指導要領上、重要な場所ですけれども、前のページで見ていただきましたように、聞く、伝えるというふうな活動はすごくよくなっているんですね。ですから、深まり切れてないと。活動はさせているけれども、まだまだ発展途上であって、これからの課題として、しっかり子どもたち自身がまとめられるようになるのか合意形成ができるようなアプローチをしていくのか、このあたりはまだまだこれから伸ばしていける場所かなと思いますし、下の家庭との関連、ここが少し弱まっているというのは先ほどの学校質問紙の3か年のところでも見たようなことになるのかなというふうに思います。家庭と学校との関係というのは、また後ほど触れさせていただきます。

次のページ、14ページですけれども、こちらは中学校のマイナスになったところというところになります。

赤い棒は伸びているけれども黄色い棒が短くなっているというところが結構見受けられます。様々な活動の中で一生懸命頑張っている学校さんと、そこはあまり力が入っていないかなという学校さんが二極化しているところがこのあたりには見えるのかなと思う項目ですので、重要度によりますし、地域課題が何かということにもよるとは思いますけれども、注視をしていただければと、学校ごとにぜひ見ていただければと思うところです。

続いて、もう時間がありませんので、ほぼ飛ばしていきますが、児童生徒質問紙についても同様の見方でグラフを作っております。

3か年でプラスになった小学校は課題を立てて情報を集めて発表、中学校も同様にそう

いった新しい指導要領で示しているような学習活動が過去よりもしっかりできてきているという傾向が見えております。

18ページ、19ページは、マイナスになったところということで、やはり地域の行事のこと、それから先ほど読書の話がありましたが、新聞も読まなくなっているということ、コロナ禍の中での様々な経験不足というところからよく言われるのが、経験を基にして夢や目標が形づくられていくんだけれども、そこがどんどん弱まっていっているというところが課題であるということも言われます。ぜひいろんな経験ができるように工夫をしていただけたらなと思うところです。

20ページからは、これは4つの指標ということで市で定められているものについての全国調査での質問紙で見るところになっています。一つ一つは触れませんが、もうどれも全国よりも高い状況にあると断言していいのかなと思います。

24ページからは、各教科の正答数と質問紙の回答の相関を整理したものになります。

各教科は様々ですけれども、基本的には相関が高いものから並んでいるというふうにご覧になっていただいてもいいかなと思いますが、相関が高いものには、左から2列目に色づけをしておりますが、家庭に関わるところがかなり上位に来ていると言えます。小学校の場合は4つに家庭があり、次のページの中学校では家庭のことが2つあります。家庭と連携してやるべきことがなかなかできていない状況だと、このあたり成績といいますか、正答率にも響いてくるんだろうと思います。その前に見ておりましたように、家庭との連携あるいは地域との連携が少し弱まってきているところですので、このあたりを着目をしていただけたらというふうに思います。

最後に、「無解答」の要因ということで、もう時間がありませんので細かくはお示しませんが、決定木という統計手法、機械学習という、はやりの統計技法でやったものがこちらになります。

最後のページの中学校のところだけ見ていただければいいかなと思います。

無解答数がゼロの生徒と、つまり真ん中のグラフでいうと「なし」、無解答が全くない生徒が1,689人、無解答が1個以上あるのが2,049人で、この子どもたちがどういう生徒かというところを見ていくに当たって、決定木というものを使っています。58番の質問で「数学の解き方が分からないときには、いろいろ方法を考えますか」、「当てはまる」というふうに答えて、なおかつ矢印の先、ゲーム時間が「2時間より少ない」と答えて、なおかつ理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う生徒が最も比率が無解答の人数が多い比率

になっていると見ていただければと思いますが、お分かりいただけますでしょうかね。

左上、右上に四角囲みで、数学の問題を諦めず、ゲームをあまりやらず、将来技術職に就きたいという生徒が無解答なしが多いと。あるいは右側、数学の問題を諦めてしまい、自己調整ができず、発表の工夫もしていないという生徒に無解答が多いというふうなことがここから分かります。どこがその生徒にとってポイントになるかということは人それぞれだと思いますが、集団として見たときに、まずは諦めずに解くにはどうしたらいいかということを考え、次に右側、見直しをするような習慣をつくるにはどうしたらいいかということを考え、発表の工夫をするにはどうしたらいいかということを考えるというような形で、これらの質問がこの切り分けるポイントになっているとご覧いただければと思います。小学校のほうは割愛させていただきます。

以上でございます。

○市長 ありがとうございます。

テンポが速過ぎてついていけなかったところがあるんですけども、皆さん方、お分かりいただいていると思いますので、ご意見、もちろん質問も含めてであります、やっただけだと思います。順番としては、今学校で實際上、生徒の指導をされている校長さん方に今の教育長そしてベネッセの話を聞いた上でのいろいろな課題の解決策の提案とか、そういうこととお話をいただき、それからそれらを踏まえて高瀬先生のほうにまたお話をいただいた後に教育委員の皆さん方からお話をいただければというように思っております。そういう順番でよろしいでしょうか。

それでは、恐縮ですが、長瀬さんからやっていただけますか。

○長瀬中学校長会長 はい。失礼いたします。コミュニケーションを基盤にした読解力というのは、単に読解力ではなくて、仲間と集団の中で自分の読み解く力を高めていこうという、この目標設定は非常に今の学校の現状に合っているかなと感じているところです。ただ、読解力というのはかなり幅が広いですので、少し落として考えたときに課題解決に向かう力と捉えたら、他者の見方、考え方をどんなふうに整理して自分の頭の中に入れて、それを自分の考えと比較して妥当かどうか、取り入れるべきかどうかという判断も要るでしょうし、単純に問題を解くとなったときに、どんな解決方法があるかというのを複数提供していくというような、その解決の手だてを友達と協力しながら探っていくという、そういうことができる力というのが読解力につながっていくのかなと感じているところです。

先ほどの決定木の中にもありましたが、オフメディアというのをどう考えていくかという事ですけど、うちはあまりそこを厳しく言っていない。むしろ、そこよりも日常の学習を充実させることで、結果としてメディアオフになっていくという発想でやりたいなと感じています。そういう流れの中で、どの学校もよくやっていますが、うちの学校では取組としては朝読書をもう毎日必ずやると。短い時間でもやるということで、これは読解力というよりは文章を読み取るスピードを速める、高めるということを目指しています。特に長いリード文になってくると、もうそれだけで読むのを諦めてしまう中学生は多いので、一定量の文章を短い時間の中で素早く読むということができるといいう習慣を付けるために、朝読書は非常に効果的かなと感じているところです。

それから、市教委が書いている取組の中で、本校ではというか、どの学校でもそうですけど、最近ではめあてもまとめも振り返りも自分の言葉で書いていこうと。教師が単純にめあてを与えるのではなくて、自分たちがキーワードをテキストの中から見付け出してめあてを設定したり見通しを持ったり、そして自分が何を学べたかというのを教師がまとめるのではなくて、子どもがまとめていく、自分の言葉でまとめるという作業を繰り返している。そういうことが大事かなと。

それから、先ほどのメディアオフの話ですけど、授業と次の授業とをつなぐ間にある家庭学習をどのように充実させるべきかということとはとても大事で、ともすると、この家庭学習がどちらかというと基礎学力、漢字を何回書いたかとか問題を何回解いたかとやりがちなんですけど、例えば今日学んだ学習をもう1回板書、別のノートに取り直して、重要なところに自分で線を引くとかマークを付けてみるとか、そういう学習を主体的に自分でつくり上げていくというような自主学習の部分も大事かなと。そういう意味でいうと、今後岡山市共通のそういった自主学習の手引のようなものがもしできてくれば、いろんな学校が参考にしながら、授業と授業とをつなぐ家庭学習の充実が図られ、結果としてそこがオフメディアにつながっていく。学習時間が延びるので、オフメディアにつながっていく。そういうことになっていくんじゃないかなというのを今お話を聞いて感じたところです。

以上です。

○市長 朝読書って何分ぐらいやって、いつ頃からやられているんですか。

○長瀬中学校長会長 赴任したときにはやってたんですけど、実は現状として他のことをしてる子も多かったんで、とにかく朝読むときはもうきちんと活字の本を10分間しっかり読もうと。

○市長 10分。

○長瀬中学校長会長 これはもう毎日やろうと。今日なんかは懇談があって帰りの会を朝やってしまうので、そういうときでもゼロにせず5分間は読もうと。そうすると、大体速い子だと文章の結構入った文庫本なんかでも10ページ近くは読めていくので、そういう繰り返しをすることでテキストを読む力、スピード、そういうものが育っていくかなと感じています。

○市長 ありがとうございます。

それでは、高山さん、お願いいたします。

○高山小学校長会長 失礼します。私も長瀬先生が言われた目標設定、今回の「コミュニケーションを基礎とした読解力の育成」というところで、これは学校も集団で学ぶ場ですから、家で1人で学ぶ場ではないので、人とのやり取りの中で相手の考えを推しはかるというか、そういうことが非常に学びの中で重要なことではないかなと捉えています。

他者の意見を聞いて、まさに今日も授業、学校で1年生と2年生の授業、1時間ずつ見てきたんですが、その中で、例えば自分が教材文の中で読み取った内容を線を引いたりしてペンで書き込んだりするんですが、それで隣の子と、1年生だと2人で話合いをします。見せ合って、それも赤い線で書くこと、それから悲しいときは青い線で引っ張ったりしながら、視覚的にも見えるようにして話合いというか、ここを引いたんよというようなことで、それぞれレベルがあると思うんですが、話合いをしたり、高学年になってくるとグループで話合いをしたりとか、できるだけ自分で友達に自分の読み取った内容や説明を言語でちゃんとするという習慣です。

子どもによって語彙力が随分違います。ここは大きなポイントじゃないかなと思うんですよね。たくさん読書をしているような子は、おのずと語彙力、語彙の獲得をものすごくしてますから、非常に読み込めるわけですよね。ところが、そうでない子どもは集団の中でお互いの意見を聞き合うというか、それも大きなクラスの中だけではなくて、すぐ隣のペアの子とかグループの子で話をして、ちょっと自信を持ったりして、ああ、そういうことなんだなということで学び取って、最後にまた集団の中でコミュニケーションをして、より深い学びにしていくということですよ。そういうことを今小学校の中では、どの学校でもやっております。

そういうことで、最終的にここに書かれてますが、取組の下に書いてますが、授業の振り返りということですよ。これは小学校では一般的にはめあてに対してまとめですか

ら、その1時間の中でどういうことが分かったかとかをまとめていくわけなんですけど、それと同時に今日の授業の中で友達こういう意見を聞いて僕はこんなことが分かったとかというような振り返りの部分、そのようなことも学年の実態に応じてやっています。

いずれにしても、その言語活動そのものをきちっとやっていく。これまでもやってはいたんですが、徹底してやっていくということがとても大切なのかなと思うんですね。あるときはやっていて、あるときは忙しいから、もうさっというたようなことばかりしていると、なかなか定着しないですね。これはここだけではなくて、算数科においても社会科においても、社会科なんか資料をいっぱい使いますから、資料からの読み取りって、まさに言語活動そのものが問われますよね。そういうことで理科にしる体育にしる活動だけしているわけじゃないので、ワークシートを使って今日はここまでのこういうところまでできた、では次の時間はこういう練習をしてみようとか、そういうのを組立てをしながらやっていくことが、こういった言語活動を通して読解力の育成につながっていくのかなと。これはやっぱり1人じゃできないことですね。独りよがりで自分のでいいという問題じゃないと思うんです。

それからもう1点は、長瀬校長先生もおっしゃられましたけど、小学校では朝読書というのをやっている学校はあるんですけども、毎日やっているというのはそうなかったように思います。それは実は小学校6年生になってもなかなか資料が初発で読めないとか、さっきの語彙の問題があります。それで、図書館には定期的に連れて行って借りたりはしてるんですが、どうしても読めない。絵本や図鑑をずっと読むこともある。つまり与えられる本、読む本がある程度選書されていくというか、そういうこともとても大切なんですけど、なかなかそこまでのことが毎回毎回できにくいということで、1つは読むこと自体に慣れる。活字に慣れるというか、そういうことが大切なんかなということで、小学校ではベーシックのスキルの部分、例えば漢字もそうかもしれませんが、読むこと、そしてまた基礎の計算、掛け算、九九なんかも含めて、朝の基礎学力の時間みたいなものを10分ぐらいやっている学校が多いです。

そこで九九は2年生で勉強したのだから、もう終わりというのではなくて、そこへ遡ってやっていくようなこととか、音読も続けていくと暗唱みたいなことになりますよね。よく1年生や2年生の子は文学作品を読むと全部覚えてしまうんですね、毎日毎日練習すると。覚えた頃には、もう内容がほとんど頭に入っていると。やっぱりそういうトレーニングが要るのかなということで、そういう読むことが苦手な子どもに対しては読むこと

自体に慣れさせる。この音読というのがとっても大切だと思って宿題でも毎回出しておりますが、保護者の方に丸入れをしてもらうんですけど、よかったら二重丸とかというようなカードを作ってやってるんですけど、こういうことの繰り返しとか朝の基礎の時間でそういうことに取り組んでいるというのが実情かなと思ってます。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

では、岡林さん、お願いします。

○岡林岡山中央中学校長 本校の現状を踏まえて少しお話をいたします。

昨年度着任して、どんな雰囲気かなと思って見てたんですけども、教職員がベテランも若手も授業に対して真剣に向き合っている。以前の中学校では生徒指導ができて部活で押さえが利く教員というのがもてはやされていた時代が長かったんですけども、そうではない環境ができあがっているという印象を持ちました。したがって、中学校の調査の結果は改善できたというのは、その流れの中にあるんだろうと感じていたんですが、今回の岡山中央中学校の結果を見たときに無解答率が全国の1.2倍から1.5倍なんです。これに愕然といたしまして、2学期の頭にこれを全国並みに来年はするぞということで、それを1つ目標に掲げて、複雑な目標をやってもいけないので、全国並みに無解答を減らしていこうやと。

では、そうしたときにどんなことをしていくのかという話になるんですが、恐らく読めなかった、書かなかった、向き合なかったという、この3つの理由があると思うんですけども、授業の中で何ができるか。若い先生方も一生懸命やっているんですけども、しゃべりが多過ぎるんです。授業の中で必要以上にしゃべってます。ですから、全体にはしゃべる量を半分に減らせ、それからもう機関銃のごとくしゃべる教員もいますから、君は3分の1にするということで、というのは逆に教員がしゃべらないと子どもの活動を保障できると。そこへ書く活動、読む活動としっかり時間を取ってやることが必要なのかなということで、しばらくはしゃべらないということでいこうと思っております。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

それでは、平井さん、お願いします。

○平井芳泉小学校長 私、今お話を聞いていて、読解力とは何ぞやというようなところに疑問を持っています。今すぐ学校で読解力に取り組むためには、この読解力の定義を我々

校長がまず確実に持つことが大切だと思っています。今3人の方のお話を聞いていて、1つは小学校で考えると課題解決に向かう力、長瀬さんも言われましたが、そこがキーワードになるかなというふうに思っています。子どもたちは自分の考えを持って、その考えを交流しながら自分の考えを高めていく。そういった中で最終的に自分の言葉で書ければ、読解力は身につくのかなというような感想を抱いています。

そのためには、まず我々教員が授業力を向上する。そこにキーワードがあるのではないかなと思っています。やはり授業が面白くないと、授業が分からないと読解力は身につかないと思いますので、そこをどうやっていくか。今本校でやっているのは、まとめを自分の言葉で書こうとか振り返りをしっかり書こうねというようなところを取り組んでいるんですけれども、そういった取組を各校の子どもの実態を踏まえてやっていく必要があるのではないかなと思いました。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

今までの説明ないしはご意見を聞かれて、高瀬先生、どうでしょうか。

○高瀬教授 ありがとうございます。今4校の校長先生からいろいろお話を伺って思ったことというのは、まず1つは岡山市の学校がただ教えて、教えたことを子どもたちが受け止めてというところからは超えてた、逆をしてきているんだというのがすごくよく分かりました。そういうふうにやろうという動きがあることで目標だった学力の部分といったところの達成がなされているのかなと思って、なるほど、その部分がこういった成果のところに出てきているんだなとなってます。

思ったのは、今回課題を教育委員会のほうでも教育長が先ほど説明されたように設定されていますけど、ここは結構妥当かなと思いました。結局教えられるだけで力が足りないんだとすると、子どもたち自身が考えないといけなくて、ではそれを考えるためにはどうしたらいいのといったときに、多分いろいろ読んだりして、その書いてあること、内容だけではないのだけれども、それを理解するときに自分の考えとか友達のを考えとかを補って説明していく、理解していくということになるのかなと。たくさん読書をしたり授業とかの改善をしたりとかいろいろ進められてきたことというのも、結局はしっかり読むというのは、ただ文章が流れていっているだけじゃなくって、そこで多分自分がいろいろ想像できたり、自分の経験とかといったところから感想を持ったり考えたりするというのができるようになっているんだ思うんですね。

むしろじっと本を一文字一文字読んでいたら自分がどう考えとか思うとかというところに至らずに、その文字に書いてあるとか絵にしてもそうでしょうけど、グラフにしてもそうでしょうけど、そこに書いてある以上のことには出てこない。でも、しっかり読んで語彙力も持って、授業改善なんかでも教員がしゃべらないような授業をすとか授業改善をしようとかというふうに振り返ったりするというのは、結局子どもたちが考えたことをちゃんと授業の中で補って理解していったらんだなというふうに思いました。

かつてはクラスの中の上位の4分の1か3分の1か優秀な子だけが、多分分かってる子たちは考えれたんですけど、多分これはもうみんなが考えるようにしなきゃいけない。なおかつ、分かってる子たちは、さらに自分の考えを人に伝えて、それを参考にして、またほかの子たちが自分の考えとかを補っていくという、何かその読解力というのは定義はきっちりしていかなきゃいけないんだけど、どの教科でもやっていることに自分が何か考えて、それを補って説明できるという、そういうふうになっていくのかなと。そう考えていくと、人と違う部分が出てくるので、お互いに話すことができるとか関わり合うとコミュニケーションになるのかなと。みんな同じ意見だったら話そうと思わないんだけど、違った部分を補って、同じものを見てるんだけど、違った自分の考えが入った、ちょっと変わった部分が出てくることで、コミュニケーションというのが来るのかなと思いました。

そうした意味では、岡林先生、平井先生がおっしゃったように、やっぱり授業力ということで、岡山市が頑張らなきゃいけないのは教員の力を上げて教員がその部分をちゃんと考えていくことかなと。子どもの考えとかを引き出せるような授業をちゃんとできてるのかなといったところがコミュニケーションを基盤とした読解力といったところで見えてくるのかなと感じました。そうしたところをやっていけば無解答率は当然下がると思いますが、データを活用する力というのもついてくると思いますので、何かよくなっていく姿が見える気がいたしました。

私のほうからは以上です。

○市長 ありがとうございます。

また後でご意見をお願いしたいと思いますが、教育委員の皆さん方、では石井さんから行きますか。

○石井教育委員 はい。お世話になります。まず最初に、今の岡山市の目標である「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」ということでありますけど

も、この子どもを会社にいつも私は置き換えているんですけども、まさに今それぞれの会社がこれを求められているという、そういう時代になって、それぞれの会社がそれができているかなという、できているという会社はかなり少ない状況ではないかなと。頑張ってる人は頑張ってる、これからやっついこうということになってるんですけども、なかなかできていないという、そういう状況で、それを大人も頑張っているんですけども、大人がなかなかできてない中で子どもにやってもらってるというのは若干滑稽な部分があるかなとも思ってるんですけども、ただこの間授業も参観させていただきまして、確かに新しい学習指導要領というのは、この目標設定、あるいは文科省の定める「生きる力」とか、そういうところの目標に沿った指導の内容になってるのはすごく感じましたし、先生方がそれに沿って対応されてやられているというのもすごく強く感じたところです。

私は読解力というところの範囲とか、そういうところは分からない部分があるんですけども、先ほどご指摘のあった家庭との相関関係が強いというところは私も一保護者として気になる部分ですので、家庭への働きかけをどうやったら上手にできるのかというところも今後気にしていただきたいなというふうに感じております。それから、先生方が新しい学習指導要領に沿った取組をされる中で、それ以外の仕事もたくさんあると思いますので、今も継続して取組になっている働き方改革のところで、きちっと先生の子どもに向き合える時間を確保することで、間接的に読解力を高めるというところに結びついていってほしいなと思っております。

それから、授業以外のところで学校で子どもたちが成長しているなというのは常に感じておりまして、学校の中で起こる様々な小さなトラブルの中で子どもたちが考えて、みんなから学んで、先生から教えられて育っているなという、その部分で、むしろその部分のほうがこの目標に近づくための大事な部分を勉強させていただいていると思っまして、その部分で先生方が子どもが強く自立できる人間になれるような指導を日々の授業以外のトラブルのところでお力を借りたいと、そういうふうに思いました。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

片山さん、お願いします。

○片山教育委員 失礼いたします。ありがとうございます。このコミュニケーションということを基盤とするというところで、他者と自分の考えをしっかりと述べて、そして人の考えを聞くという、そのコミュニケーションの重要性を今ひしひしと感じさせていた

いております。少子化という状況の中で、家庭の中で自分の意見をしっかりと言わないと伝わらないという経験もなかなかないと思うんですよ。保護者の方は割と意を酌んでくださる、兄弟数も少ないので、何とか折り合いがつくという状況の中で、やっぱり学校に行くことの一つの意味というのは、集団の中の一人として、いかに自分をきっちり表明できるかなというところかなと思います。

そういったところで、学年に合わせて二人とか、それからグループとか、だんだん集団のサイズを大きくしていく中で、自分の意見を述べられるように環境をつくってくださっているというのは、非常にありがたいなと思います。ついつい保護者も、私もそうなんですけれども、両親が共働き家庭って、もう5割を超えてきてると思うんですけれども、そんな状況の中で家庭の中で、じゃあ子どもの意見を聞けてるかという、どっちかというともう指示命令で、一緒に何かをするというようなこともすごく乏しくなってますし、コロナ禍で、何となく家には一緒にいるんだけど、それぞれ何だかやっていると、そのような状況がある中で、家庭の中での対話というのがすごく減ってきてるなという気がします。

そんな中で読解力とか本を自分から読むということを考えたときに、小さい頃からの習慣ってすごく大事だなと思っていて、私は家庭の中で、まず乳幼児期から読み聞かせというのを保護者との関係の中でしっかりと育んでもらうというようなことも重要なんじゃないかなというふうに思います。読み聞かせというのは、読み語りと言われたりもするぐらい二者関係の中で絵本の内容を通して語り合うというようなことも重視してるようなところもあって、何かそういうところから読むことの楽しさとか、そこから活字を通していろんな世界が広がっていくんだというところを小さいときからしっかりと体験することで、今度は主体的に読んでみたい、読もうという、そういう意欲につながるから学校生活に入って行って、いろんな集団の中での学びにつながっていったらいいなと感じました。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

それでは、河内さん、お願いいたします。

○河内教育委員 せんだって、芳泉小学校と岡山中央中学校の授業を参観させていただいて非常に強く感じたことは、このどちらも教育大綱を目標にきちっと見据えて、それでそれを授業の中に落とし込むような、そういう授業改善をされて公開をされていたというこ

とで、随分この教育大綱の目指すものが学校へ浸透してきているなということを強く感じました。

新しく読解力というのが出てきたんですけど、これが教育大綱との関連、これ、どのように関連づいているのかということのをこれから明らかにしていくことが大切かなと。先生方も何か腑に落ちるといふか、よし、これだというのがしっかり理解できて自分のものになってこそ、授業改善への熱意とか意欲とか実効性のあるものになっていくと思います。だから、そこが一つこれからの大切にしたいことかな。でも、先ほどから校長先生方がいろいろ、この読解力に関してお考えをおっしゃられて、なるほどと思って聞かせていただいて、いっぱいヒントを今日いただけたかなと思っています。

それから、ついつい国語、算数、数学が指標になってくるので、特に中学校なんか教科担任制ですし、いろんな教科の先生方が自分のところとはちょっと違うかなということにもなりかねないので、その読解力というのがぜひ、先ほども高山校長先生がおっしゃった、体育ではどうすることが読解力になるのか、音楽でもしかり、いろんな教科で読解力というのは具体的にこういうものなんだと、それを具体的にこういうふうに育てていこうというのが、これから明らかになっていけばいいのかなと感じました。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

それでは、上西さん、お願いします。

○上西教育委員 4人の校長先生のお話を聞かせていただいて、私もすごくいろいろ工夫をされて朝の読書であるとか音読であるとか、いろいろ考えていらっしゃるがよく分かりました。その結果かもしれませんけども、データを見る限り、このベネッセさんの4ページ、5ページとかの先ほどもお話がありましたけども、記述式の指標とかはかなり上がってきているということで、すばらしいことだと思います。恐らくこの数年間だけでも、いろいろ取組をされてきたんだろうと思っています。恐らくいろんな校長先生の考え方もおありだろうと思いますので、いろんな取組がされているということ、これを既にされているのかもしれませんが、岡山市内でいろんな取組を紹介し合うなりして共有して、いいものを取り入れていくというような試みをさらにされていけば、いい結果が出ていくのかなというような印象を持ちました。

読解力については、確かに私も難しいなと思って、それぞれ多分捉え方も違うんだろうと思っていますが、そうはいつでも本を読むことという基本的なところというのはやっぱ

り重要かなと私は思っています、これ、またどうやって習慣づけるか。私も2人、娘が小学校に通っていますが、上の子は本が大好きですが、下の子はあまり読まない。同じように育ててきたつもりだけど、やっぱり個性があるんだなというところで、そういう子にどうやって本を読まそうかなと私も日々考えているんですけど、ここらあたりもいろいろ考えていって、少しでも本が好きな子が育つような取組をしていただけたらいいかなと思っています。

以上です。

○市長 どうもありがとうございました。

では、少し私の意見も言わせていただいて、それからフリーでディスカッションさせていただきたいと思います。

実は私2週間前にコロナウイルスにかかりまして、1週間、家において、最初の2日ぐらいは喉が痛くて大変だったんですけど、そこからやることがなくなっちゃったんですね。だから、いろいろな本を読んでたんですが、その本の中に1つ、子どもたちの読書に関する本がありまして、特に小学校の校長さんに間違えていたら訂正していただきたいんですけど、今、国語の教科書、1年から6年まで厚さがそんなに変わらないと言っているんですね、若干違うのかもしれませんが。そういう面でいくと、上西さんがおっしゃったように、本を読むことという、教科書でどこまで読んでいけるのか。

高山さんがおっしゃったように、1人では駄目だということはそのとおりで思うんですが、本当に少量の文章でもってお互いが意見を出し合っていく、その集団を大きくしていったらいいじゃないかと片山さんもおっしゃって、その要素はもちろんあるんですが、本当にその要素だけなのか。読書量をどれだけ増やしていくのか。長瀬さんがおっしゃったように、10分の時間をそれに充てる。私なんかはそういうのはいいことだと思うんですけども、この読書というのは本当に議論し合う、それで新しく自分で気づくこともあるでしょうが、それにしてもどれだけ読むかということも個人にとっては非常に大きな要素で、そのバランスって一体何なんだろうかというようなことを少し疑問に思ったというのが1点。

それから、河内さんがおっしゃっているように、我々2期の大綱をつくる時にいろいろな視点を議論させていただいたんですけども、この読解力、そもそも無解答率が多いというのは最初から、これは岡林さんが指導課長のときから随分議論になった。幾つかよくなっている。ただ、今回粘り強くいろんなことに挑戦していこうといった大綱の中で、

この読解力をどう位置づけていくのか。それが先生たちにすっと落ちるように、どうやって我々として説明をしていくのか。その2点目って、案外と言ったら失礼なんですけど、重要なんじゃないかなというような気がいたしました。

私からは以上ですけれども、それぞれ出た点について教育長またベネッセのほうも参加していただいて議論をしていただければと思います。

まずは、河内さんのおっしゃった、今回の2期の大綱の中に読解力って、どういうふうに位置づけていくのか。これは教育長ないしは岡林さんも含めて、教育委員会のほうでの考えがあったら言っていただけますか。

○奥橋教育次長 教育次長の奥橋です。

確かに今この読解力というものを教育委員会でずっと考えていたんですけれども、そもそも学力にしても問題行動等にしても何が発端なのかなということで、第1期の大綱から上がってきたことをずっと議論をし続けてます。その中で、まず他者の理解とか、または学力で言えば問題を解いていくとか、そういうことを考えているときに、そもそもこれって何だろうと。今、校長先生方のお話にもありましたが、読解力とか分かるというのは、これは国語という教科だけではなくて、全てに関わっているのではないのかなというようなところを我々が議論していく中で出てきたのが、一人だけで学ぶものもあれば、集団の中で学ぶものもあると。そういうことが学校に求められているのではないかとこのころで、この大きな目標という「コミュニケーションを基盤とした読解力の育成」ということが出てきたわけなんです。

ただ、これは我々が毎日いろんな議論をしていく中でたどり着いていったとこなんですけれども、それを今個人の、市長もおっしゃってくださったように、学校の先生方に、また市民の方、保護者の方にいかに伝えていくかというのは、これから我々が考えないといけないことかなと思いますが、全てここにつながってくるのかなというふうな事務局のほうの思いであります。

○市長 よく分かりましたが、今の点についてどうでしょうか。

河内さん、何かありますか。

○河内教育委員 大変難しい問題だなと思っているんですけれども、私個人とすると、この活用力も読解力の一つであり、表現力も読解力の一つであり、そしてコミュニケーションを基盤としたというところで「向上心」、「社会性」とか「人権尊重の精神」とか、こういうものが絡んでくると思うので、何かこの5つの目指す力をまとめたような、そうい

う言葉のようにも取れるんですけれども、いかがでしょうか、皆さんは。

○市長 今の問題提起に対してどうでしょうか。

高瀬先生、どうですか。

○高瀬教授 今の河内教育委員がおっしゃったことというのは、読んだときに自分がどれだけこういう大事な価値を持つかというような、そうしたところになってくると思うんですよね。だから、授業とか聞いてても、価値を持てたら、これ、価値あるなとか、これ、自分にとっていいことだなとかと思えたら授業は楽しくなってくるわけで、どの教科でも。だから、そうしたところがやっぱり入ってくるのかなというふうに思いました。だから、そういう意味では読解力というのは大綱に書かれている5つの力というのを一つ象徴的に示しているものかなと思います。

先ほど市長がおっしゃった読書の量というのは、その価値を考える上では多ければ多いほうがよくて、そういった意味では読めるとか、いろいろ情報を取ってこれるとかというのは、すごく大事なことかなと思ってます。ただ、そのときに中学校でいきなりたくさん文章を読めとか分厚い本を読めと言っても読めませんので、先ほど片山教育委員がおっしゃったように、読み聞かせといったところから始めて、だんだんだんだん自分で読めるようになっていくという、そうした見通しというのが大事かなと。そういう意味では、指定都市の強みということになると思うんですけど、中学校区で幼・小・中といったところで、ちゃんとやっていくというのと、そろっていくというのと、そうした子どもができるのかなと聞いておりました。

○市長 ありがとうございます。

どうでしょうか。

教育長、何かありますか。

○教育長 ありがとうございます。私も皆さんの意見を聞いていて、これだけやればいいというのはないと思うんです。河内委員も言われたように、広いところで読解力というのはあると思うので、各教科で授業改善の中でやっていくのも一本だし、市長が言われたように読書をどうするかというのも一本だと思うんです。今、高瀬先生が言われたように、読書をするんだったらどういう段階を踏んでやるんがいいのかなというのは、もう一方で考えないといけないことかなと思って。市長が言われたように、僕もやっぱりバランスが要るんかなと思いますね、どっちかだけやればいいというのは絶対ないので。だから、授業改善と読書を読み聞かせから始めて、中学生ではどれぐらいできればいいのかみたいな

ところを示していくと、両輪で行けるのかなという感じが今しています。

○市長 どうでしょうか。

現場の校長さん方、長瀬さんか、取りあえず中学校、行きますか。

○長瀬中学校長会長 めあてとまとめという授業の基本から考えたときに、どうしても講義型の授業になると、知ろうとか理解しようとか、そういう内向きなものになって、考えたら終わり、理解できたら終わり。実際その理解が本当にできているかというところ、ペーパーテストをやってみると意外にできてなかったりする。若手の先生が多いので、職員会議ではアウトプット型のめあてをつくってみたいかという話をしています。

だから、理解しようではなくて、理解して説明しよう。理解できたことが説明できて初めて理解できたと言えるので、先ほどの授業改善のところをいうと、そういうアウトプット型のめあてを持つ中で理解して説明しよう、知って説明しよう、考えて説明しよう。外へ出ていく言葉で自分自身が本当に理解できていたのかというのを自分で確認できるという場面をつくってやらないと難しいのかなと思うので、もちろん授業改善の中で読書がどう関わってくるのかというところ、そういう筆者の主張をどういうふうに取り取っていくかみたいな経験がその説明できるというところにつながっていくので、そういうお互いがそれぞれの力を高めながらアウトプット型の学習活動につなげていくと言ってもらって一つの手だてとして読解力というキーワードがあると、すごく学校としては分かりやすいかなというのを今感じたところです。

以上です。

○高山小学校長会長 先ほどは特に述べてないんですけど、私も授業改善がとっても大切だと思っています。さっき言ったんですけど、そうやって、例えば授業の振り返りをきちんと自分の言葉で書くとかということですけど、これは徹底するというのは、つまりやるべきときとやらないときがあるみたいなことでは結局身につけませんよね。かつては活動はものすごくするんだけど、活動したり問題を解くんだけど、最後の言語活動がおろそかにされてたという時代があったんですよね。活動ありて学びなしみたいなことをよく言われてたんですけど、そのところをきちんと小学校の1年生から毎時間のようにきちっとやっつけていこうと。そういうことを繰り返していくことで、さっき長瀬先生も言われたんですが、アウトプットするというところにもつながっていくのかなと考えています。

それと、主体的に考えさせるということは、これも小学校も従前からずっとやってきていることなんですけど、授業もめあての持たせ方とか、いかに子どもたちが自分が学びを

主体的にしていくかということで、例えば算数科の授業でも、今日はこの問題をやるよみたいな話ではなくて、問題をつくることからしっかりと、子どもがこういう問題、これ、どうやったら解けるのかなとかという、そういう問題の与え方からしっかりと取り組んでいく。そうなってくるとしっかりと考えますから、また話合いも当然起きてくるとかというようなこと。それからまた、授業の中で多様な意見が出るような場面がありますが、そこでしっかりと意見の交流をしたりとかすることで、さらにそういう経験を子どもたちに積ませていくようなことも考えています。

それから同時に、市長が言われた読書量を増やすというのは僕もものすごく実は大切なことだと思っていまして、小学校では大体ですけど、うちなんかはなかなか規模にもよって図書館利用はしにくいところはあるんですけど、週1ぐらいは必ずそういう時間を取って図書館に実際行きます。小さな学年は学校司書の先生とか担任なんかを読み聞かせ、そういう機会を必ず取りながらやっています。そうやって興味をまず持たせていくということですね。それから、図書館に何度も行くということで、そこで週1回ぐらいは大体図書の本を必ず借りて持って帰っていると。学習の合間に読んだりとかというようなことは、ずっと小学校では恐らくどこの学校でも根づいてやっていることであります。5年生、6年生ぐらいになってくると、本当にちょっと時間があくと子どもたちがぱっと開いて読んでますよね。ああいう姿を見ると非常にもううれしいです。

以上です。

○市長 皆さん方、委員の皆さん、いろいろとご指摘があれば。

岡林さん、どうぞ。

○岡林岡山中央中学校長 私はちょっと皆さんと違った話をしたいんですけども、僕が言いたかったのは、やっぱり授業、授業の中で子どもに力を付けていかないと、これは教員の本務だと僕は思っているんで、そこにこだわったお話をさせていただきます。つまり教員が子どもたちに活動する時間を与えないと何も力が付かないというのを最近感じているので、したがってコンパクトで分かりやすい指示をしなさいと。これが教員の資質能力の向上というところにつながるんじゃないかということでのお話をさせていただきました。

以上です。

○市長 セっかくですから。

○平井芳泉小学校長 まず、我々が、先ほども申しましたけれども、読解力とは何かとい

うようなところをしっかりと持って、それを自分の、例えば中学校だったら自分の教科の中でどのように実現していくのかというようなことをまず考えれるというのが大切だと思います。小学校だったら全ての教科・領域をほぼ担任がしますから、全ての教科・領域の中で包括的にどうやって読解力を付けていくか。その読解力というのは5つの力を包含するものだと私は思いますので、その育む5つの力をどうやって付けていくのか。それが共有できる。とにかくまず共有をしないと前に進まないんじゃないかなと思っています。

以上です。

○市長 何かございますか。

どうぞ。

○西島 外部の人間ですので率直にこの資料2を拝見して申し上げたいと思うんですが、目標が読解力となっていて指標が記述式問題というのは、ここに大きなギャップがあるなと思いますので、長瀬先生が先ほどご説明くださったように、やはり説明できてこそその読解力であるというふうな、そういうふうな橋渡しをしっかりと書いていかないと、よい方針も先生方に伝わらず、先生方に伝わらないものはもちろん子どもたちに伝わらないとなっていくと思いますので、何かそのあたりをぜひ工夫をしていただけると、すごくいい目標と指標になるのかなと思った次第でございます。

あともう一点なんですが、読解力といったときに本当に皆様、様々な捉え方があると思うんですが、今後の教育あるいは社会が向かっていこうとしている流れの中で1つヒントになるかなと思うのが、大学入試センターが11月9日に新課程での共通テストの試作問題というものをしています。その中の国語の問題で、通常は縦書きで長い文章があって設問があってというのが皆様イメージされるものだと思うんですが、横書きの文章2ページ、それから図とグラフだけで構成されたものが2ページ、4ページの問題に対して設問があるというふうな問題が新しいタイプということで出されています。

ご承知のところていくとOECDのPISAという調査がありますが、そういった形の問題のイメージです。ですので、読解といったときにグラフを読めるのも読解ですし、様々な読解があるので、そういった力を付けていきましょう。国のねらいとしては、理系不足というのはすごく深刻な問題と捉えていますので、非連続のテキストという言い方をしますが、長い文章を読めることももちろん大事ですし、そういった素養を生かして社会で貢献してくれる人材も育てていかないといけないのですが、国として不足しているのは非連続テキストをしっかりと読んで思考して論理的にアウトプットができる人材と言われて

いますので、ぜひ広くそのあたりを捉えていただいて計画を立てていただけるといいなと思っております。

以上でございます。

○市長 どうでしょうか。

西島さんのおっしゃるとおりだと思いますよ。読解力というのは、いろいろな意味があるわけなので広く取らないといけないと思いますが、個人的な感想を言わせていただくと、私この前授業参観をさせてもらって、特に芳泉小学校で見た平行四辺形の面積の出し方というところで幾つかの出し方みたいなものを子どもたちが議論してやってたというのは記憶してるんですが、それは、長瀬さんが言うように最終的に説明するアウトプットだけど、そのアウトプットでの時間の使い方があまりに長いと退屈する人って相当いるんじゃないかなと。そういうのもバランス、何かバランスという言葉ばかり使ってるようなんだけど、先ほど平井さんのおっしゃったように授業が面白くないと駄目という話がありましたよね。僕はそのとおりだと思うんで、分からないような授業をするというのは、もちろんよくないし、でも分かり過ぎて、それが確かに自己表現はそれでできるかもしれないけど、公立の学校だから、いろんな人がいる。いろんな人の中のどういうニーズに対応していくのか。

それぞれ対応していかなきゃいけないと思うんだけど、そのバランスというか、そこというのは議論、どうするんだろう。岡林さんが言ったように、もうこの授業というか、子どもたちの人材としての開発、育成という面では、学校の先生が一番。もう家庭がどうのこうのと言ったって、そう急に変わるわけじゃないし、地域の人たちももちろんやってくれるにしても、そんなに変わるわけじゃない。となると先生が一番なんだけど、その先生にどういうふうに授業を展開してもらうのか。そのあたり試行錯誤しながらやっていかなきゃなんないんではないかと、だから議論を聞いていると、例えばアウトプットが100%というわけじゃないんじゃないかと。そういうもののバランスというのが重要なんじゃないかなという気がするんですけども、どうでしょうか、現場の先生ないしは教育長。

○教育長 私は専門が体育なんですけど、体育は個人差がすごく大きくて、体育は外でやったりする分、例えば跳び箱でいくと結局段数を変えれば個人差に応じれるんですよ。幅跳びでもいろいろやり方があるけど、国語、算数あたりの教室の授業で個人差にどう応じるかというのは本当にずっと課題だったと思います。今思っているのは、ちょっと分かりにくい話かもしれませんが、例えば割り算だったら大体6時間ぐらいで、1時間で完結

することはないんで、6時間ぐらいで余りがあったり、ないのをやったりしていく中で、単元という中でメリ張りを付けていくのが大事なのかなと。ここは個人で学ぶところとか知識を学ぶとこ、ここは考えるところ、授業の中でもそのバランスなんでしょうけど、大きいところで本当に市長が言われるようにバランスという言葉が出ますけど、やっぱりメリ張りみたいなところは要るのかなと思います。

○市長 上西さん、いろいろとうなずかれています。

○上西教育委員 大変勉強になります。確かに学力、能力に差があるというのは、もうそれはしょうがない現実だと思います。それに対してどう対応するかというのは本当に苦労されてるんだろうと思いますが、例えばよく分かってる子がちょっと理解が遅れてる子を教えるとか、そうやることで分かってる子も自分がどれぐらい説明できるかということが再認識できるだろうし、少し分かってない子は少しいろんな説明を受けて、いろんな説明の仕方があると思いますんで、そういう形でやっていくのも手なのかなと今感じていたところでございます。

○市長 ほかにどうでしょうか。

はい、どうぞ。

○西島 すみません。受け売りで大変恐縮なんですけど、例えば4足す6は10という問いに答えると答えが1つしかないんですけど、10になる足し算を考えなさいですとか裏返した質問をすることによって複数の答えが出るような問いを与えることで、できる子はたくさん考えられる。そうでない子も一生懸命1つの答えを出そうと思うというふうな、何かそういう指導の在り方にどんどん変わってきていると伺っています。問いの立て方をどうするかというのをすごく先生方は困ってらっしゃるといいますか、大変なところなんですけども、その研究がこれから私どもでも研究したいと思いますし、深めていかなきゃいけないところだろうなと思っております。

○市長 ありがとうございます。

○教育長 1点、いいですか、市長。

○市長 はい、どうぞ。

○教育長 もう一つ、キーワードとしては、学習指導要領の個別最適化というのと協働的な学びというのが多分本当にこれからの教育でどうそれをやっていくかというのが教育委員会も学校も一緒に考えていくと、市長が言われるところがみんな満足した学びになっていくのかなと思いますので、そのキーワードのところも含めて授業改善はやっていかな

いといけないと考えています。

○市長 石井さん、今日はおとなしいんじゃない。

○石井教育委員 すみません、このことで特に意見はないんですけども、平行四辺形の説明の仕方もどうですかね。5種類ぐらいは多分あると思うんですね。それを見付ける楽しみというのもあると思いますし、平行四辺形ができたら平行四辺形の公式はこうなんだけど、では円で見たときにこの3.14って、どういう意味があるのかとか突き詰めていくと面白い課題というのはいっぱいあるんじゃないかなと思ひまして、何かそういうのがプラスアルファで、プラスのできた人、これができるみたいなのを最近では子どものテストを見ると何かそういう附属の問題みたいなのがよく付いてるんで、そういうのもやっていったら、それでいいのかなと思います。

○市長 ほかにありますか。

教育論というのは一人一人みんな持っていると言いますけど、そういうものを集大成して整理をしていくということが重要と思っております。

それで、今日特に教育長から説明していただいた資料1、2でありますけれども、実は今日の場というのは大きく今までと違いがあります。今までは菅野教育長が様々な教育面をリードをしていかれました。すばらしい成果を上げたと思っております。その菅野さんの下で第1期の大綱、第2期の大綱を整理させていただきました。これから三宅さんが教育長として、また腕を振るわれることになるわけですが、そういう面では今日は一つの変わり目のときかもしれない。そういう面では、河内さんのおっしゃった、この今我々がやろうとしているものというのは、この2期の大綱、これは菅野さんがやった、大分関与したとはいえ、岡山市としてやっていこうと言ったわけなんで、その中にどう位置づけていくのか。それが何を意味しているものなのかというのは、明らかにするというのはおっしゃるとおりだろうと思ひます。

多分これは全面始動していくのは来年度の話になるでしょうから、もう一度総合教育会議もありますから、この全体の大綱の中でこれが一体どういう位置づけになって先生方にどう受け止めてもらうのか、そこは教育委員会中心に詰めていただきたいと思います。

それから、西島さんからも少しあったんですけども、この指標の問題ですが、この正答率の対前年比を1以上にするという、ここの意味をもうちょっと整理しておいたほうがいいかもしれないですね。それで、例えばこれでいくにしても、正答率の全国比というのは今一部学年では達成しているわけでしょうから、これを達成しているものを指標にすると

いうのも変でしょうし、そうすると全学年でやるということを明確にするのか。そういったもう少し大綱ないしは我々として子どもたちのためにこういう議論で人材を育成していくんだということがもう少し分かりやすくできるようにして、来年度以降の小・中学校の先生方の参考になるようにしていただければと思います。

よろしいですかね、教育委員会のほう。

○教育長 はい、ありがとうございます。

○市長 では、そんなことでやらさせていただきます。

最後、まだ2分ぐらいありますけど、何かございましたら。

よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 それでは、本日の協議はこれまでといたします。事務局に進行を戻します。

○司会 ありがとうございます。

次回の会議は改めて通知させていただきます。

以上で令和4年度第2回総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもお疲れさまでございました。

午後4時56分 閉会